

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスしーど			
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和6年12月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和6年12月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフが充実している。	現在、男性4名、女性5名の9名のスタッフがいます。 保育士や看護師などの専門職に限らず子育て経験がある。陶芸や農業の知識を持つスタッフがでいる。食育を中心とした活動を行う市民団体に加入している知識のあるスタッフがいる。マルシェ経験がある等の様々な経験や得意分野を持ったスタッフがいます。それぞれの得意とする分野で子どもたち一人一人に合った支援や声掛けを心がけています。	スタッフの経験や得意分野を生かした活動を今後も取り入れていきたいです。 令和7年度からはスタッフの所有する土地を活用し無農薬有機野菜の栽培、田植えや稲刈り、収穫した作物での調理、その他自立に繋がる調理活動（食育）に力を入れていきたいと考えております。
2	様々な活動やイベントがある。	陶芸体験、電車などの交通機関を利用した小旅行、野外炊飯など様々な活動やイベントを実施しています。（活動の詳細はInstagramにて紹介しています。） スタッフが活動を決めることもあります。詳細は子どもたちで話し合っ決めてもらうこともあります。話し合いの中では自分の意見だけではなく、お互いの意見を尊重し合いながら話し合いを進めることができています。	同上 子どもたちからの希望があれば工夫し積極的に取り入れていく所存です。
3	地域交流や外部とのつながりが強い。	地域交流としておたけの家やみんなの公園のイベントに積極的に参加をしています。 手をつなぐ育成会に入会しており、ひまわりマルシェでは子どもたちと一緒にマルシェの店出を行いました。 白石高校の文化祭に参加したり、卒業研究の題材としてしーどを選んで頂き高校生徒との交流を行いました。 西九州大学短期大学部の牛丸先生とクリニカルアートを実施しました。 その他にもスター発掘プロジェクトや響祭りではステージ出演をさせて頂きました。	今後も地域との交流や外部との関りを大切にしていきたいです。 イベントに遊びに行くだけではなく、自分たちでマルシェの店出をしたり、ステージに出演する機会を増やしていければと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者尊重の重要性を同業者や関係機関に伝える。（課題）	当事業所が最大に心がけていることが子ども達の尊重です。 しかし放課後等デイサービスの現状の実状として子ども達にどれだけ言う事を聞かせることができるのかという子どもの権利、尊厳を無視した実態があります。子ども達をコントロールすることばかりに目を向けている様子が分かります。 2016年に子どもの権利条約を基本理念とした児童福祉法が制定されましたが、それを守る以前に存在すら知らない同業者や福祉関係者がほとんどという状況です。 こうした状況の中、利用者尊重という理念を掲げて、好き勝手にさせているという認識しか持たれない同業者は少なくありません。当然のように保護者の方も放デイは宿題や学習をさせてくれるものだという福祉に対する間違った認識を持たれています。（一概に全てがそうという事では有りません。）	大人にとっての子どもの為ではなく、子どもにとっての子どもの為という考え方が大切なのだと思います。 今後も子ども達に対する尊敬、尊重を実践し実践することで伝えていきたいです。 子どもの権利を擁護する医師の研修を受け、専門的に支援できる環境も整えていきます。
2			
3			